

記念日のいわれ No.1

4月21日…チラデンチス記念日 (Dia de Tiradentes)

4月21日はブラジル独立運動の志士、チラデンチスが処刑された日です。ブラジルがポルトガルから独立した後、彼は、英雄そして独立の殉教者として称えられ、この日が祝日とされました。

「Tira (チラ)」とは「抜く」、「Dentes (デンチス)」とは「歯」のことで、あわせて『歯を抜く』という意味になります。彼の本名は、ジョアキン・ジョゼ・ダ・シルバ・シャヴィエール(Joaquim Jose da Silva Xavier) といい、彼が歯医者で、その頃の歯科医の主な仕事は歯を抜くことであったことからこのあだ名がついたのです。



チラデンチスは、1756年にミナス・ジェライス地方のサンジョアンデルハイに生まれました。この時代はポルトガルによる植民地支配の時代で、貿易の独占や過酷な税金の取り立てなどで、ブラジルの人々は大変圧迫されていました。金鉱を抱えるミナス地方にはとくに強い圧力をかけられていました。

18世紀中頃、フランスの思想界において生まれた自由平等の思想が、ヨーロッパから帰った進歩的な留学生らによってブラジルにもたらされ、さらに1776年7月4日にはアメリカ合衆国が独立を宣言し、民主主義国家を誕生させたことで、人々は独立への情熱を沸き立たせました。

1789年ミナス・ジェライスのヴィラ・リーカで同志とともに革命が計画され、サンパウロでも同時に決起するという手はずとなっていました。同志ジョアキン・シルバーリョ・ドス・ヘイスの裏切りによって事前に発覚して失敗し、首謀者はことごとく逮捕されてしまいました。

3年にも及ぶ裁判の結果、捕らえられた首謀者集団の中でもっとも身分が低かった彼のみが革命の全責任をおって1792年の4月21日、リオ・デ・ジャネイロのサン・ドミンゴス刑場にて処刑され、見せしめのために八つ裂きにされた上、リオ・ミナス街道とピラ・リーカでさらされました。彼が絞首台に立ったとき、「自分は人間が求める自由のために死ぬ」と言ったと伝えられています。この事件は「ミナスの陰謀」と呼ばれ、明確に独立を目指すブラジル最初の運動となり、ブラジル独立の気運を盛り上げていくことにつながりました。